

北海道遺産活用連絡会議

稚内港北防波堤ドーム
宗谷丘陵の周氷河地形



稚内市の冬を代表するイベントとなった「彩北わっキャナイト」(写真右)。北防波堤ドームをスノーキャンドルやアイスクャンドルで彩り、幻想的な世界を醸す。写真下は、周氷河地形の神秘を肌で感じる「宗谷丘陵フットバス体験ツアー」



稚内の宝を見つめ、歩み始めたグループ。 そのひとつひとつを支えるため発足。

2つの遺産選定 そして、人が動き出した

「稚内港北防波堤ドーム」は、世界でも類を見ない半円形ドーム構造。古代ローマ建築を想わせるそのフォルムは、港湾土木史上に残る傑作ともいわれている。

しかし意外にも、稚内市民の心は北海道遺産に選定されるまで、北防波堤にはそれほど向いていなかった。そこにあつて当たり前。大きな災害でもない限り、北防波堤の存在を気に留める人はいない。

2003年、夏。そんな北防波堤にプラスチックの軽快な音楽が響き渡った。選定から約2年後の出来事。「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」が主催した「Wakana i みなとコンサート」だった。演奏者も聴衆も、頬を風になでられながら、今まで味わったことのない心地よさを感じていた。

そして、翌年の04年秋。「宗谷丘陵の周氷河地形」が北海道遺産に選定された。気がつけば、稚内のまちは、いろいろな市民グループが生まれていた。

宗谷丘陵には周氷河地形について紹介している案内看板が登場し、北防波堤では夏になるとコンサートが開かれる。冬は、無数のアイスクャンドルが北防波堤を灯し、たくさんの人々が、白い息を吐きながら「キレイ！」と歓声を上げる。

それぞれの活動の輝きを、ひとつとして曇らせないために。05年の冬、新たな結成が果たされた『北海道遺産活用連絡会議』。

授かった宝物を みんなで愛し愛されるものに

『北海道遺産活用連絡会議』は、市民グループと行政の結束によって誕生。遺産を生かしながらまち

おこしをめざす同志として、横のつながりを強めようと発足された。「ひとりよりふたり、ふたりより三人の方が、可能性は大きい」という考えです。同じにまちを想い、同じ宝を大切に集まりなことから、力を合わせるの自然なこと。今後は、美しい景観づくりや魅力ある観光空間づくりにも力を入れていきたい」と話すのは、稚内市総務部地域振興課の山本純氏。市民だけでなく、訪れる人にも愛される北海道遺産、そして稚内市をめざす。

【会の構成】

- 稚内観光協会
- 宗谷観光物産協会
- 稚内観光物産協会
- (社)宗谷畜産開発公社
- 稚内のみなとを考える女性ネットワーク
- 稚内みなとまちづくり懇談会
- 未来のくらしと宗谷路を考える会
- (株)ユーラスエナジー宗谷
- NPO法人映像コミュニケーショングループ・ユー
- 稚内市

「オフィサー」

稚内開発建設部、宗谷支庁